日本学術会議　国際対応分科会　自己点検報告書

国際対応分科会（小委員会）名　国際歴史学会議等分科会　　更新日　2012/9/19
（2009/05/01の形式）

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名
（和文）　国際歴史学委員会
（欧文）　Le Comité International des Sciences Historiques
（略称）　CISH

日本学術会議加入年（西暦）　1955 年

運営組織の名称・役員の構成等
運営組織の名称（欧文）　Bureau du Comité International des Sciences Historiques

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
（氏名）	Marjatta Hietala		Hilda Sabato； W. den Boer	Robert Frank
（国）	フィンランド		アルゼンチン； オランダ	フランス

役員選出方法の概要（120文字程度で記載）

7人の委員（内3人は現行会期の理事）から成る理事選考委員会が加盟各国内委員会・各委員会から推薦された候補者の中から会長、副会長（2名）、事務局長、会計、理事（6名）の候補を選び、総会の承認を得る。会長は重任できないが、次期会期の投票権をもたない理事会メンバーとなる。

加入国・地域の数　54 ヶ国
主要加入国（10ヶ国程度を列挙）

アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ、日本、カナダ、韓国、オーストラリア、中国、ベトナム、インド、チリ

国際学術団体のホームページURL　http://www.cish.org

国際学術団体の年間運営経費　CHF 48597.31
日本の分担予定額[事務局で記入]　72千円（2012年度）

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況（過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載）

開催年（西暦）	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの参加者数	学術会議共催/協賛の有無
2012	総会	ブダペシュト	約100人	2人	無
2010	総会	アムステルダム	約100人	2人	無
2010	大会	アムステルダム	約1300人	約60人	無
2007	総会	北京	約100人	2人	無
2005	大会	シドニー	約1500人	約50人	無

運営に関する会議の開催状況（過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載）

開催年（西暦）	会議の名称	開催場所（機関等）	参加国数	日本からの代表者名	学術会議の代表派遣数
2010	理事会	アムステルダム	12（理事全員）	樺山紘一	なし
2009	理事会	東京	12（理事全員）	樺山紘一	なし
2008	理事会	アムステルダム	12（理事全員）	樺山紘一	なし
2008	理事会	ヌーシャテル	5（三役のみ）	樺山紘一	なし
2007	理事会	北京	12（理事全員）	樺山紘一	なし

出版物等（主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載）

(1)Bulletin d’information　（定期刊行物、年刊）(2)2011年からウェブ上の情報に移行中。

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
特になし

国際機関等への提言等
特になし

国際事業等への参加・実施等
特になし

全世界的/地域的研究課題への取組み
特になし

発展途上国への対応
前々期（ユルゲン・コッカ会長）以来、従来CISHの活動が展開していなかったアフリカでの活動強化がめざされている。具体的成果はまだ十分にあがっているとはいえないが、2010年のアムステルダム大会へのアフリカからの参加者は、従来の大会より多かった。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

歴史学研究の細分化が進み、個別分野での国際交流が進展してきているなかで、歴史学のあらゆる分野を包括しているCISHの国際的役割を再強化することが課題となっている。

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況（過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載）

国際学術団体における役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
理事指名委員会委員	木畑洋一	2008	2010
副会長	樺山紘一	2000	2010

学術会議の国際対応分科会（小委員会）名　国際歴史学会議等分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

特になし（日本歴史学協会国際交流特別委員会との密接な協力関係はあり）

国内の関連学協会等の状況（主要なもの5件まで記載）

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本歴史学協会	1500人	http://www.nichirekikyo.sakura.ne.jp
歴史学研究会	2200人	http://rekiken.jp
史学会	2300人	http://www.shigakukai.or.jp
日本西洋史学会	1000人	http://www.seiyoushigakkai.sakura.ne.jp/index.html
日本史研究会	3000人	http://www.nihonshiken.jp

学術会議の国際対応分科会（小委員会）の活動状況

学術会議の国際対応分科会（小委員会）名	国際歴史学会議等分科会
所属分野別委員会	史学委員会

分科会（小委員会）の構成

委員長	副委員長	幹事	
小沢弘明	木畑洋一	岸本美緒	三谷博

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	12	0

分科会（小委員会）の活動方針（箇条書きで120文字以内で記載）

１）5年に1度開催される国際歴史学会議への日本の歴史学研究の積極的貢献を進めていくことを中心的課題とする。
２）その他、日本の歴史学の国際交流の全般的推進を図る。

今期の会議開催状況（開催日時の新しいものから遡って６回まで記載）

会議開催日時 （2009/05/01の形式）	主な審議事項・議題等
2011/12/26	1）分科会の役員選出 2）2015年に済南市で開催される第22回大会に向けて、日本国内委員会から提案する12テーマについて討議
2010/11/4	1）2010年8月にアムステルダムで開催されたCISH大会についての報告 2）CISH日本国内委員会の責任者交代の承認
2010/1/29	1）2009年9月に東京で開催したCISH理事会、公開講演会などの結果報告 2）CISH2015年大会候補地問題について討議
2009/6/12	1）2009年9月に東京で開催するCISH理事会、公開講演会などの計画を討議 2）CISH次期理事候補推薦について討議
2008/12/19	1）今期の分科会体制確認 2）2009年9月に東京で開催するCISH理事会、公開講演会などの計画を討議

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況（箇条書きで120文字以内で記述）

１）日本歴史学協会のホームページで、国際歴史学会議の大会セッション一覧を示した。
２）5年毎の国際歴史学会議の記録は、翌年の『歴史学研究』で特集している。

国際対応における国内学協会との連携状況（箇条書きで120文字以内で記述）

１）日本歴史学協会の国際交流特別委員会と密接な協力関係をもっている。
２）必要に応じて、歴史学関係の各学協会との連絡を行っている。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況（箇条書きで120文字以内で記述）

「CISHにおける一層の活動に期待します」とのコメントをいただいており、それに応えるべく活動を行っている。2009年9月に東京でCISH理事会を開催したことも、その一環である。

分科会・小委員会活動の自己評価等（箇条書きで120文字以内で記述）

1)今期の主要な活動は、2015年に済南市で開催される国際歴史学会議の準備作業を行うことである。
2)日本国内委員会からは2012年1月に12のテーマを提案した。
3)準備作業の一環として、2012年9月にブダペシュトで開催された総会に参加した。総会では日本国内委員会の提案した5テーマを含む74テーマが採択された。
4)同総会にさいして、ハンガリー科学アカデミーが開催した移民に関する国際シンポジウムに参加した。